

## ごあいさつ



鹿児島県高等学校文化連盟  
会長 田嶋 吾 富

第47回全国高等学校総合文化祭「2023 かがしま総文」は令和5年夏の7月29日から8月4日まで7日間、ここ鹿児島県内8市町を会場に、22部門で開催することができ、高校生の笑顔輝く素晴らしい高総文祭となりました。

大会初日の総合開会式における代表生徒入場は、1977年の第1回開催県である千葉県の高校生から順次登場し、文化のバトンを次の開催県へと繋いでいくという演出でした。次々と繋がれるバトンは、第35回の2011年の東日本大震災のときも福島県が「集めよう創造の輪思いをつないでほんとの空へ」のテーマで繋ぎ、2020年からのコロナ禍においても第44回高知県がオンラインで繋ぎ、さらに、和歌山県、東京都へと。そして、一度も途切れることなく大切に繋がれたバトンを最後に受け取った鹿児島県代表の高校生が、「47の結晶 桜島の気噴（いぶき）にのせ 紬（つむ）げ文化の1ページ」の大会テーマで入場し、第47回全国高等学校総合文化祭の開会が宣言されたのでした。これまで、大人たちがもう今年の開催は難しいと思われた時でも、高校生はその困難を乗り越えるエネルギーを持っていることを証明してくれました。

このように途絶えることなく、高校生が頑張っただけで大切に繋いだ文化のバトンを、次の2巡目に向けて桜島の気噴（いぶき）にのせ発信する素晴らしい大会になったと思います。「2023 かがしま総文」を終えて、鹿児島の持つ固有の文化芸術が全国、国を超えて融合し、紬がれたレガシーを次の世代へしっかりと発展・継承させていかなければならないという思いを強くすることでした。全国都道府県を1巡目最後である47番目として開催されたという貴重な巡り合わせに加えて、コロナ禍を耐えた高校生の笑顔輝くパフォーマンスや交流に多くの県民が元気をもらったと思います。

この「2023 かがしま総文」で高まった文化芸術の気運を令和8年度に鹿児島で開催される2巡目の全九州総文へ繋いでいくためにも裾野を広げつつ、レベルアップを図っていくこと、さらに、他校の生徒や地域との交流により、生徒が成長する機会となる表現の場を用意することがこれからの高文連の大きな役割だと思っています。そして、「2023 かがしま総文」を超えて芸術文化に興味関心を持つ高校生が創造性を発揮し、鹿児島の魅力を世界へ発信していってくれることを期待しています。